

5. 都市福利施設を整備する事業に関する事項

[1] 都市福利施設の整備の必要性

【現状の分析と必要性】

本市の中心市街地における都市福利施設の整備状況をみると、公共施設においては、小・中学校、市庁舎、おにクル、市民総合センター（クリエイトセンター）、障害者就労支援センター、男女共生センターなどの公的機関や施設が立地している。特に令和5年11月に開館したおにクルでは、ホールやスタジオ、プラネタリウム、市民活動センター、こども支援センター、屋内こども広場、図書館などの文化・子育て支援機能が集積しており、子育て世帯をはじめ、中学生・高校生などの若年層、高齢者層など多世代の市民が日常的に憩い、活動する光景が見られる。また、学術機関として立命館大学が立地しており、令和6年度には同キャンパス内に新棟が開設され、映像学部・映像研究科および情報理工学部・情報理工学研究科が移転するとともに、教育機関初の「Microsoft Base」が設置されるなど、大学と社会を繋ぐ共創プラットフォーム「TRY FIELD」として民間企業や行政をはじめ多様な主体と連携した共創の取組が進められており、学生だけでなく地域に開かれた学びの場として今後の展開が期待されている。

以上を踏まえ、中心市街地においては多くの都市機能が集積しており、本市が目指す「ひと中心のまちなか」の実現に資する都市福利施設がすでに整備されている。今後は、おにクルをはじめとするこれらの既存施設を活用し、訪れた市民が商店街や公園・広場などまちなかの様々なエリアへ回遊し、滞留したくなるような取組を進めることが望ましい。

【フォローアップの考え方】

基本計画に位置づけた事業について、毎年度末に進捗状況を調査し、必要に応じて、改善措置及び効果の実証を行う。

〔２〕 具体的事業の内容

（１）法に定める特別の措置に関連する事業

該当なし

（２）①認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した特例措置に関連する事業

【事業名】 おにクル周年イベント

【事業実施時期】	令和 7 年度～令和 11 年度		
【実施主体】	茨木市（共創推進課） / おにクル各指定管理者 / 市民活動団体等		
【事業内容】	ホール、子育て支援、図書館、市民活動、プラネタリウムなど多様な機能があり、吹き抜け「縦の道」など建築的な特徴を有するおにクルにおいて、機能間の連携や異なる主体の連携により相乗効果を発揮する企画を展開するほか、市民・団体が企画・運営するプログラムを実施する。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	目標 1 歩いて楽しい徒歩圏の実現 目標 3 多様な主体が使いこなせるまちなかの実現		
【目標指標】	平日昼間の歩行者通行量 公共空間活用件数		
【活性化に資する理由】	本市の「共創の中心地」「見本市」として、「おにクル」全館をあげて多様な主体が連携した取組や市民活動等を展開することにより、共創施策の推進を図るとともに、各地域の市民・団体等の活動の活発化・活性化につなげることで、平日昼間の歩行者通行量の増加、公共空間活用件数の増加に寄与する。		
【支援措置名】	中心市街地活性化ソフト事業		
【支援措置実施時期】	令和 7 年 4 月～令和 12 年 3 月	【支援主体】	総務省
【その他特記事項】	区域内		

（２）②認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した重点的な支援措置に関連する事業

該当なし

（３）中心市街地の活性化に資するその他の支援措置に関連する事業

該当なし

(4) 国の支援がないその他の事業

【事業名】立命館大学コミュニティ共創プロジェクト

【事業実施時期】	平成 26 年度～		
【実施主体】	立命館大学		
【事業内容】	市民、学生、大学教職員などが立場や世代を越えて出会い、つながり、コミュニティを創出するとともに、そこでの交流を通じて新たな気づきや学びを得ることを目的に、地域社会連携等のプロジェクトや一般市民向けの講座を実施し、大学と地域の連携や市民の中心市街地での活動の機会を提供する。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	目標 1 歩いて楽しい徒歩圏の実現		
【目標指標】	平日昼間の歩行者通行量		
【活性化に資する理由】	市民、学生、大学教職員など多様な主体がプロジェクトを通じて活動し、交流することにより、中心市街地への来街機会が増え、平日昼間の歩行者通行量の増加に寄与する。		
【支援措置名】			
【支援措置実施時期】		【支援主体】	
【その他特記事項】			

【事業名】大学施設活用促進事業

【事業実施時期】	平成 26 年度～		
【実施主体】	立命館大学		
【事業内容】	大学専用施設の一般利用を促進することで大学施設を地域にも広く活用してもらい、中心市街地への来街機会や活動機会の創出を図る。		
活性化を実現するための位置付け及び必要性			
【目標】	目標 1 歩いて楽しい徒歩圏の実現		
【目標指標】	平日昼間の歩行者通行量		
【活性化に資する理由】	市民が大学施設を利用することにより、中心市街地への来街機会が増え、平日昼間の歩行者通行量の増加に寄与する。		
【支援措置名】			
【支援措置実施時期】		【支援主体】	
【その他特記事項】			